

令和4年 第8回(定例会)
厚真町教育委員会会議録

- 1 開会 令和4年6月30日(月)14時30分
- 2 閉会 令和4年6月30日(月)17時00分
- 3 前回会議録の承認
- 4 出席委員の氏名
遠藤 秀明 池川 徹 金光 えり 日西 大介 長門 茂明
- 5 委員及び傍聴人以外の会議出席者氏名
生涯学習課長 奥村 与志照
生涯学習課参事 中村 真吾
生涯学習課参事 作田 和彦
- 6 会議録署名委員の指名
(金光 えり)
(日西 大介)
- 7 教育長報告
 - (1) 行事参加等の動向 (資料1)
【質疑なし】
 - (2) 条例または規則に定める委員の委嘱について (資料2)
【質疑】

池川委員 : 1年任期で、充て職なのか。例えば、住民課長に就いたから、住民課長がなるというようなものか。
奥村課長 : そういった充て職になる。
池川委員 : 途中で異動になれば変わってしまうのか。
奥村課長 : そうなる。
教育長 : 町職としての機能を持って色々生かしていただくという目標がある。
 - (3) 定例議会の一般質問答弁について (資料3)
【質疑なし】
- 8 第2回町議会定例会報告
 - (1) 厚真中学校陸上グラウンド整備工事請負契約の締結について (資料3)
 - (2) 財産の取得について (資料3)
 - (3) 令和4年度厚真町一般会計補正予算第2号について (資料3)
【質疑なし】
- 9 所管報告
学校教育グループ・給食センター

- (1)厚真町教育支援委員会 6月21日開催について (資料4)
(2)6月の校長会議・教頭会議について (資料5)
(3)厚真町教育研究所の活動状況について (資料6)

【質疑】

- 金光委員 : 教育支援員会議について、5月頃に保護者の方に説明会が開かれたそうだが、それは該当のお子さんということではなく、全保護者に対してのものなのか。
中村参事 : 全保護者対象に行った。
金光委員 : よその町から転入する場合、どの時点で就学先が決定するのか。
中村参事 : その点については、元いた市町村に問い合わせをして、そのお子さんに対して何らかの支援がされていたかどうかの情報を収集したうえで就学先を検討する。情報が無い場合には、そのお子さんについては普通学級にまずは入学していただくことになる。

社会教育グループ

- (1)厚真町スポーツ推進委員会議・集まりンピック関係について
(2)ディスカバリーカルチャーについて
(3)英会話教室第1期目について
(4)放課後子ども教室・特別教室初夏の森遊び&わくわく染物体験
(5)土器づくり体験について

【質疑】

- 池川委員 : 集まりンピックに関わる牛肉を取得していると聞いたが、その使い道はどのようにする予定なのか。
奥村課長 : 例年と似たような、参加者の方々にお配りするような形、自治会単位などになるのではないかと考えている。
池川委員 : その場で食べないで、持ち帰ってもらうという考えでいるということか。
奥村課長 : そうなる。
池川委員 : 牛肉は必要なのだろうか。最初は何かの記念で出した。
教育長 : お昼を挟むのであれば確かにまだ良いと思うが、持って帰れと言われたら自治会は困ると思う。
長門委員 : 持って帰ってその日のうちに自治会で焼肉でもやるのであれば、ありがたいということになるのだろうが、配布されたけどみんなに配るとなるとどうか。
教育長 : 役員さんも困る。自分たちだけでというわけにはいかない。
池川委員 : コロナで分散という配慮しながらやっている中で、こちらで出す手土産が集まって食べるというものはどうなのだろうか。何回か前の会議でも牛肉はいらぬのではないかと聞いたことがあるが、それを用意しているというのは、安いものではないのでどうなのだろうか。継続してやるようなものでもなかったのではないか。
教育長 : 町としても、牛肉の町内での畜産振興を含めてという意味で、教育分野でもそれに関わっているということだったとは思っている。今回、冠は20回ではあるが、コロナの関係があるから余計に内容を検討する流れ、果たしてそういうものが良いのかどうかということは考えなくてはならない。
奥村課長 : 加工業者の方の加工の期限が過ぎてしまっているということで、変更がなかなかできない、難しいという話は聞いている。

- 池川委員 : 後で学校給食とかの評価も出てくる中で、地元産のという部分があるのであれば、教育委員会の予算でやるのであれば、学校給食にその分をシフトして何回か出してあげれば地元の特産品が足りないような充実していないようなイメージを持っていたので、代用に使った方がいいと思う。今のコロナで規制して田舎祭りもやると言っているのに、集団で食べるようなものを提供するの少し控えた方がいいのではないか。
- 教育長 : 去年、一昨年と学校給食で予算の振替をしたが、今年度もそういうことは視野に入れておかないといけないのではないかと。
- 池川委員 : それをある程度シフトするのであれば、特産品開発機構もサーロインの部分は高価すぎて給食だとか集まりンピックに提供出来る金額ではないから、田舎祭りに売ろうとしている。それであれば、密にならない程度のパックでバラのセットなどで業者さんが間に合うのであれば、その時まで作って販売し、なおかつ残ったら給食に使うとか手当てした方がいいのではないかと。
- 奥村課長 : 経済グループの方ともやり取りをしてみる。
- 教育長 : 今年度の当初予算の中では、あくまでもコロナ禍ということはしっかりと状況を見ながらということになっているので、今委員会の中ではそういったシフトも含めて、しっかりと活用してほしいという意見もあるから、町事務局とも連絡を取り合って、整理してほしい。
- 池川委員 : 雨が降って中止になったら人も集まらないだろうし、その辺を少し考えて使った方がいいのではないかと。これは子供に食べさせてあげた方がいいと思うが。
- 教育長 : 池川委員から学校給食での活用もしっかり視野に入れて欲しいという意見があったが皆さんはどうか。ここでの方針、決定はできないかもしれないが。
- 長門委員 : 学校給食で使用されるというのはいいと思う。
- 奥村課長 : 検討させていただく。
- 教育長 : 町も色々な畜産振興とか、特産の振興という意味合いがあるのであれば、学校給食に出すということで学校給食側で町費をもって食育という形で実施するという事でもいいし、今まで町民体育祭に冠を付けて出していた記念品のようなものをそっくりそのままの金額というわけにはいかないかもしれないけれど、出せるものにシフトするという考えも当然想定しておいてほしい。
- 池川委員 : いつも商工会がスター券の物販を行っていたのだが、ただ雨が降って中止になるということになると生鮮の用意もできなくなるから、教育委員会と話しをしてスター券を期限を付けて商品券に商工会の方で変えて、自治会でまとめて買うなり、走った人が金券に変えて使えるような方法が一番得策なのではないかということが商工会で検討されているようだ。
- 教育長 : 柔軟な対応を考えてみて欲しい。それと雨天時には今まではスタードームを利用して開催してきているが、今回はコロナ禍であるために安全に安心してできる状況にならないので雨天時は中止に持つていくということか。
- 奥村課長 : そうなる。上限人数に比べて以前の参加者の方が多いので、屋内では難しい。

- 教育長 : ドームの上限人数を超える参加者がある可能性があるから中止に持っていくということか。
- 奥村課長 : そういう方向で考えている状況である。
- 池川委員 : コロナを考えて牛肉は密になることを見越して提供しない方がいいだろうし、集まりピック自体もお祭りだと捉えている方が朝から飲んでいるわけだから、そこら辺も目をつぶっているけれども、その方々が競技に出られて怪我をしたとかとなれば、後で問題になる部分も多少はある。人が足りなくなれば飲んでいてる人でも引っ張っていってしまうから。
- 教育長 : スポーツの振興や体力づくりということを事業の目的としているが、やはり厚真町の色んなイベントの中の大きなこういうイベントはないのだと思うので大事にしていきたいところだが、できないことはしっかり割り切らないと、後々色んな事故などに結び付くことがあるので、雨天の場合はコロナの関係で、中止という方向でいきたいということか。
- 奥村課長 : それも考えているという状況である。まだ中止にするかそれとも例えば自治会さんから選抜して出していただき人数を制限したうえで、スタードームでというような案だとか。
- 教育長 : 自治会だと皆さん大変だと思うし、選抜する意味が分からなくなる。
- 池川委員 : 例年アナウンスしているのかは分からないが、例えばお祭りの部分と競技と合わせているイベントだから、アルコールを飲んでいてる方が選手として出場しないようにとかというようにアナウンスをしているのか。
- 教育長 : 会場内ではしていると思うが。
- 池川委員 : 応援団の方はいいけれど、選手の方は飲酒しないようにアナウンスしてほしい。
- 教育長 : 記念品等についての扱いもコロナ禍という事であるから流用的な対応をしていただきたい。ラジオパーソナリティーだとかという企画があるのではなかったか。
- 奥村課長 : その部分は呼ばない方向で考えている。
- 教育長 : 特にアトラクションなしということか、冠が付いているが。
- 奥村課長 : 冠が付くので、そのアトラクションはないが、アトラクションに予定していた予算を使って記念グッズのようなものを配布させてもらうことを考えている。
- 長門委員 : 牛肉の話題に戻ってしまい恐縮なのだが、出店みたいな町内外から人が集まるであろう時にこの集まりンピックのPRもかねてこの予算を使い、例えば牛肉販売するとか、串にしたものを販売するとかのタイアップはできないものなのか。
- 池川委員 : できるのだが、ただ一回目の時にもこういう話があって厚真の牛を商店が用意できますよという話だったが、農協に代わってそこからずっと農協になった。だから量を半頭買わなくても加工したりとかはできる。部位を選んで。
- 長門委員 : 集まりンピックで加工されたお肉はカットの仕方が部位関係なくスライスしてカットしてパックも山盛りになったものにラップを巻いたみたいなものが自治会に配られて、自治会でも戻ってからみんなで焼肉をしてその時に使ったのだが、ちょっとこのカットは何なんだろう、

きれいに並んでいるわけでもないものだったので。その辺を考えると無理してどんと買ってどんと出すというよりは、少しの量をおいしくいただける仕組みにした方が良いのではないかという気はするが。多分前日も1回目に牛肉配布したときは何か冠があって目印としてやったのだらうけれど、それをずっと続けるというのは芸がないのではないかというのが正直な感想。

教育長 : 教育委員会の行事というのを PR しないといけない。そうでないとただ単純に町民体育祭で牛肉が出たんだという記憶で終わってしまう。参加者にその時にこの牛肉がこうなんですということをしっかり PR しないと、せっかく出してもその内必ず付くものだと思われてしまったら、無くなったときに急に内容が薄くなったと思う方もいるだろうから、気を付けないといけない。

池川委員 : 牛肉に関して、例えば文化協会を通して飲食店と牛フェアでもやるとか、いくらでもそれぞれみんな色んな予算を持ったりしているのだからみんなでタッグを組めばなんでも出来ると思う。活用方法など、一部の意見じゃなくて広く意見を聞いてみてやっていくのがいいと思う。

奥村課長 : 検討させていただく。

教育長 : 開催に関しては7月の中旬位までに方向性がもし見い出せればと考えている。コロナの関係で状況が大きく変わるようなのであれば、例えば極端に言うと中止ということも含めて皆さんにも連絡しながら判断しなければいけないと思う。ただ、北海道や都市部ではコロナの状況が違うという雰囲気になってきているので何とも言えない。その他にあるか。

長門委員 : 英会話教室の13人の受講者の方々の年齢層というのはどんな年齢なのか。

教育長 : 一昨年ケルシーさんがいた時にどんなものなのかと思い受講していたのだが、若い人はそんなにいない。大体若くても30代、後は年配者や60代の方もいる。高校生や20代の方はいなかった。

10 議案

議案第1号 令和4年度厚真町育英資金の貸付について (資料7)

【質疑なし】

11 協議

(1)厚真町教育委員会の活動教育に関する点検と評価について (資料8)

【質疑】

(特別支援教育支援員配置事業)

池川委員 : とても大切な事業だと思われる。令和4年度は令和3年度と比較して1年生が急激に増えているが、入学して3か月経ったがその後の様子はいかがか。

中村参事 : 教頭会、校長会の話でも入学してから児童生徒は、徐々に学校の環境に慣れ落ち着いていると聞いている。

池川委員 : 今後、支援を必要とする児童が増えいくと感じる。それも想定した中で今後の方向性とかは現状維持でやっていけるのか。対応策を増やさなければならぬとか、そういうのは必要なさそうなのか。

- 中村参事 : 徐々に支援を必要とする児童生徒が増えている状況で人材確保については、私どもも懸念しているところである。
- 教育長 : 池川委員が今おっしゃった内容の意図は、現所維持というか体制を現状維持というのではなく、今そういうお子さんが増えてくることを想定すれば、例えば今後の方向性というところに拡大という考えがあってもいいのではないかとことだと思っただけだ。事務局側の現状維持というのは、サービスの質に関して現状を低下させずに対応していくという意味である。
- 金光委員 : 私は、中央小学校1年生の支援員として勤務している。この一年生の子たちは入学の段階でちょっと手をかけてあげないと大変だよというようなことを言われてきている。
- 入学時点で通級指導を受けているお子さんも中にはいらっしゃるが、今の早い段階で指導を受けられているので3年生くらいになるまでには課題をクリアできるかなという手ごたえを何となく感じている。特別な教育支援を受ける子は生まれもったものもあるが、コロナの影響もあるのかなと感じている。コミュニケーションの取り方であったり、体調不良の場合は休むことが出来たりと、コロナ禍で子どもたちも育ちにくかった部分や課題はあったのではないかと感じている。
- このように感じるところはあるが、現時点では落ち着いていると思う。一方、こども園との連携がやはりまだまだ必要なのかなという気はする。こども園の段階では大丈夫だったけれども、学校に行っても少なくとも1日5時間授業なので、5時間きちんと座っていなければならないが、自分の席に着いたら離席しないで過ごさなければならないというのがすごく苦痛な子もいると思う。
- 設定保育をしないのであれば学校に行き机に座って授業を受けるためにどんなことをこども園の時代に身につけなければならないのか、小学校とコミュニケーションをとってやっていかないと子供たちが可哀そう。小学校に入ってきたときに、学校なんか行きたくないとなってしまうのではないかなという気はするので、自主性を育てて、自分で決めさせるというような部分で、こども園では自分のやりたいことを自分で選んでやるとか、そしてやりたいことを伸ばすという部分で力を入れられているのだと思うが、小学校もこども園に対する理解がまだまだ足りないだろうし、こども園の方でも一応小学校をわかってされているとは思っただけだが、ただ、今の段階だったらまだギャップがあるという感じがする。コロナ禍でまだできなかった部分があるのだが例えば小学校の個々に関わるコーディネーターの先生とかはこども園のやっていることを見に行くということはあるとは思っただけだが、なかなか普段の授業をしている担任を持っている先生たちはこども園でどんな活動をしているのかというのが今は全く見に行く機会がないと思うので、例えば小学校が夏休みの期間中にこども園の様子を見に行くだとか、こども園の先生も1年生がこういう風に授業しているのを知っていただくことも必要じゃないかなと思う。
- 教育長 : 実際に今8人支援員がいるし、36人の児童生徒に寄り添っているのだが、今後2人、3人と児童生徒が増えた時に現状維持の8人体制で対応出来るのか。
- 金光委員 : 例えば苫小牧市と比べたら中央小学校には3人の支援員がおり、すごく

恵まれている状況だと思う。苫小牧市では1校に1人いるかいないかの状況で、そのついでにお子さんも授業中教室から飛び出してしまうとか、なかなか席に座っていただけないとかという事が多分多いと思うので、そういう意味では厚真町は手厚いと思うし、担任の先生たちも支援員が入ってくれることで、助かっている部分があると言ってくさる。現状は2学年を1人で見ている形である。低学年に重きをおき、高学年は1日1時間か2時間算数などを見ている。低学年にもう一人必要とも思われるが、今は大丈夫と感じている。

教育長 : 当然その状況に合わせて拡大をしないといけないかもしれないが、今は現状の維持でも大丈夫ではないかという現場の雰囲気のようなのだが。

金光委員 : 私の感覚なのでその辺はちょっと実際のコーディネーターの先生たちの感触というのも違うと思うので。

池川委員 : それよりも小学校とこども園とかの就学前の連携をとる協議の場がもっとあった方がいいということか。

金光委員 : そうなる。コロナ禍前は小学校の運動会や1年生の生活科の学習、そして学習発表会にこども園の子どもたちが来ていたがそれがコロナ禍で出来なくなった。その際に学校側としても次に来る1年生の状況を把握できる。

池川委員 : 来てもらえる機会がないのであれば、小学校の担当の方がこども園の活動を見学に行き、そして適切なアドバイスをしていくことができれば、お互いに連携が取れていいと思う。

教育長 : 今皆さんから色々な意見が出た。方向性については現状維持という形で今は大丈夫だと思う。課題や改善点という中で幼、小、中のしっかりとした情報共有と連携をさらに強化をしていくことの必要性を加えて欲しい。

各委員 : 了承

(英語教育推進事業)

池川委員 : 本町の英語教育は素晴らしいと思う。小、中で得たものを高校に行き活用させるような例えば厚真高校に英語に特化したものを設けるなど、高校魅力化と連携した発展的なものがないと、せっかく9年間かけて得たものが無駄になってしまう可能性があることから、それをもっと伸ばせるものをやっぱり課題として、考えた方が良くはないか。

自ずとここの学校に行きたいと思わせるように、英語の部分に特化した小、中、高一貫の階段づくりをした方が良くはないかと思う。

教育長 : 義務教育において推進してきた取組により、ある程度の成果が定着している中でさらに伸ばし、子どもたちが学んだものを生かす場を高校以上の場へとつなげていく様な工夫が必要ではないかという内容の記載があればという意見だと捉えている。

池川委員 : その通りである。

教育長 : 間違いなくそれは厚真高校の魅力化というものに結び付けなくてはいけないし、できれば厚真町で育てている町外の高校を目指す子にも結びつけることを考えなければならないということを記載する。

各委員 : 了承

(学校給食センター管理運営事業)

- 金光委員 : 残食が多いというか11.1%から令和3年度13.1%のその理由と
いうのは何かあるのか。
- 中村参事 : 学校において絶対に食べなさいというような指導をしていない。これは
現場の話なのだが、余しているものが例えばほうれん草の胡麻和えだとか
現代の家庭ではあまり出ない料理が残されている傾向とのこと。家庭
で出たことはないから給食に出たときに食べられないというような状
態が少し見られるという話は聞いている。
- 池川委員 : もっとメニューを工夫しろということか。子どもたちからしてみれば。
今のニーズにあったメニューにしてほしいということか。
- 教育長 : ニーズに合わせてメニューを工夫しているのだが、食育という意味では
子どもだけでなく、家庭にもメニューをお伝えしている。やはり家庭で
はそういった意識した家庭料理が出来上がってくると子どもたちも食
べられるが、見たこともないものについてはやはり食べられない子もい
る。積極的にカロリー計算されたメニュー表を保護者に提供し、かつ小
小学校でも食育の授業を行っている。家庭での食育も必要であると思っ
ている。
- 金光委員 : 私の感覚では、小学校の低学年において給食をそれほど残しているよう
には思えない。こども園から給食を食べてきているので、そんなに残し
ているイメージはない。こども園の頃から食べているというのはすごく
大事だなと思った。例えば低学年のうちは食べたいけど時間がなくて食
べきれなくて残してしまう子もいるし、もちろん苦手で食べられないとい
う子もいると思うが、全体として13.1%だけれどもその中身は中学
2年生、中学3年生になってもそういう残食が多いものなのか、小学生
が多い分中学校卒業するころには9年間以上食べている子どもたちが
それでもまだ残すのか、見方を変えたらどうなのかなという気がした。
- 中村参事 : その辺の分析というのはされていなくて、全体での残食率である。
- 教育長 : この残食率を成果指標にあげたということはやはり、栄養やカロリーを
計算して作っていると思う。でも本当は全体的に完食されるのが1番良
いのだが、その日の体調であったり、子どもたちの成長の過程だったり、
色々な要素があったりするので、そういった意味を意識しての割合とい
うのは入っていると思う。だからこれは課題改善の中にそういう意図で
残食を少ないようにしているのだけれど、それぞれの学年とか時期とか
について更に分析をしていかなければならないというのは書き込まな
ければならない。
- 池川委員 : Facebookに以前毎日メニューが掲載されていたけれど今は違うところ
に載せているのか。
- 教育長 : 給食センター用のFacebookができたので、そちらで発信している。
厚真町のFacebookなのになぜか給食センターが中心というような印象
もあったことから給食センター専用のFacebookにした。
- 池川委員 : 1食あたりの単価が決まっても高級食材を使って量を少なくしてカ
ロリーをとるのか、安いものを多く使ってカロリーをとるのかそういう
違いもあるかもしれない。そういうのも調べてみるのも一つかと。
また、例えば残食の活用方法として、豚を飼育してみるというのはどう
か。
- 金光委員 : 残食の処分はどうなっているのか。

- 中村参事 : 廃棄になっている。
- 池川委員 : 廃棄するのもお金がかかるのだろう。
- 教育長 : 効率的なことも考慮して、無駄とならないようにすることも必要だ。
- 長門委員 : 厚真産食材の使用目標が40%になっているが厚真町内に限定することは、かなりハードルを上げているのではないかと思う。その辺はどうなのか。この指標が例えば北海道産とか、胆振産とかというように、もう少し枠を広げると達成率が高まってくると思う。
- 池川委員 : 広域でどここのブランドと名前がついているもので足りないものを補填的に作っているという部分が厚真であるから品種も多いのではないか。
- 長門委員 : 胆振管内では品目が多い方だとは思う。ただそれを生業としてやっているか、副業的という野菜作りとしてやっているのか産直と連携された。産直も副業をお金にするというところから始まっているというところなのでハードル高いと思う。
- 教育長 : 40%というのは妥当な目標なのか。
- 長門委員 : 地場を厚真に限定するのか、広域にするのかというところで大きく違いが出てくるという気がする。
- 池川委員 : 特産品と言われるものが少ない厚真町でやれというのは厳しい。
- 長門委員 : 米に関してみれば100%、穀物ベースでいくと割合が高い。パンは別として。そういう部分で均して40%にするというのは意外とハードルが高いと思う。
- 池川委員 : 牛乳とかは指定のものがあるわけだろう。
- 中村参事 : その通りである。
- 池川委員 : 小麦だって。そうしたら限られてくる。
- 長門委員 : ここで出荷しているものが、例えば厚真に直接卸せる場所というのがない現状で、農協を経由して市場へ行って市場から回って厚真町へ戻ってくる。あるいは厚真のものが混ざっているブランドになって戻ってくる。このような物をカウントできないという事が「40%」厚真産で賄うということに無理があるのではないかと心配をしている。
- 教育長 : 教育振興基本計画の中では40%。だからこれを機に厚真産と道内産の2つを目標値につけても良いと思う。
- 池川委員 : 桜姫どりにしても結局一時期厚真産とうたったのだが、数量が足りなくて追分とか他から持ってきたから名称が変わってしまっているというのがある。
- 教育長 : 成果指標については次年度以降の目標として色んなやり方を研究してほしい。
- 池川委員 : 学校給食で例えばアイヌネギだとかそういうのは厚真産として出さないのか。
- 長門委員 : 出せない。
- 教育長 : 指標については様々な宿題が出た。事業評価について妥当性、有効性、効率性、A、B、Bとなっているがそれについてはどうか。
- 池川委員 : 他市町から来た先生からおいしいと言われるものAでいいと思う。値段的にも。しかし、これだけ残るものがあったとしても現状維持というのは本来おかしい。全部の項目が現状維持だが、100%できて現状維持であって、できていない課題があっても現状維持は改善しなくてはいけないのではないか。有効性、地元食材を目標には言っていないが、それはそれで

- 目標とは離れているがAでいいと思う。効率性も。
- 教育長 : 他の委員の皆さんはいかがだろうか。池川委員から有効性と効率性はAでいいのではないかと。
- 金光委員 : 3年度だけ見れば26.7%となっているが、2年度から見ると拡大しているし、先ほどの説明からしても今後も拡大していくということで捉えるとAでもいいのではないかとと思う。
- 教育長 : 有効性、効率性ともにAということで、外部評価委員の方に評価をいただくということでよろしいか。今後の方向性についても現状維持ということでよろしいか。課題及び改善点案の中では今委員の皆さんからいただいた意見でよろしいか。
- 各委員 : 了承

(就学援助事業)

- 池川委員 : これは国で決まった金額とかはあるのか。
- 中村参事 : ある。
- 池川委員 : それでは近隣とかとみんな同一の支援なのか。
- 教育長 : 厚真町は追加される項目は全部その都度足している所以他の市町村よりはいい。最近になってアルバム代やオンライン通信費を追加している。自治体によっては加えていない自治体もある。
- 池川委員 : 他より優れているのであればいいのではないか。
- 教育長 : 間違いなくそれは言える。
- 池川委員 : 現状維持で。
- 各委員 : 了承

(厚真高等学校教育振興補助事業)

- 長門委員 : 新入生をいかに確保するかということが指標となっているため、どうしてもその部分が評価の基準になってしまう。厚真の魅力化の方向性とこの事業の方向性とかも少しまだ噛み合っていないのかなというところがあるので、充実した高校生活を過ごして卒業したかどうかという部分を指標にあげることが必要なのではないかと気がする。
- 池川委員 : 人数確保の魅力化だけで、本来の魅力化は違うと思う。
- 教育長 : この振興補助事業はあくまでも側面的な支援で人数の確保から始まった。物理的な確保をしながら魅力化を進めていかななくてはいけないことから現状維持をしながらも当然将来的には縮小していく考えもある。
- 池川委員 : 今は人員確保する目的として補助しているが、今後はこの学校に行きたいと思う生徒たちが増えるものに予算を使うように変えてきたいという方がいいのではないかと。
- 長門委員 : 補助事業そのものは魅力化事業の方には予算化されているのか。
- 教育長 : 入っていない。厚真高校魅力化の事業とは別にはなっている。
- 金光委員 : 公営塾とかもここではないのか。
- 教育長 : ここではない。
- 金光委員 : 陸上とかも別なのか。
- 教育長 : 指導員関係も別である。
- 池川委員 : だからそっちでやっている魅力の政策をやっている部分に予算をシフトしてっていくというのは。
- 教育長 : その考えもいいと思う。
- 池川委員 : 人を確保するだけの政策では、いずれは限界があると思う。

- 教育長 : 評価それから方向性についてなのだが、先ほど課題改善点案については意見があった通りでよろしいか。
- 池川委員 : あまり妥当でないでもいいと思う。有効性も妥当でないと思う。
- 池川委員 : 本当に来てくれる高校にしなかったらますます負担が増えるだけになる。20数人になってしまった時もあった。結局この効果というのは入学者数を確保したように見えるけれど、最終的には効果がなかったようになってしまう。
- 長門委員 : 何年か前にCをつけたことはなかっただろうか。
- 池川委員 : 自分が入ったとき下げたことがあった。
- 長門委員 : ここの改善点案に魅力化を充実させていく必要がある。推進していく必要があるという部分が大事な部分だと思う。本腰を入れるために、あえて、厳しい評価にするべきなのかなと思う。
- 池川委員 : 4年度の予算の増加理由は。
- 中村参事 : 毎年必ず40人入学する前提で予算化している。
- 池川委員 : ただこの1校の高校を守るがためにお金を使っている。町外に出る子ども町内に来る子ども半分というなら整合性があるけれど、これは少しおかしいのではないか。
- 金光委員 : 町外に行っている子たちにも交通費の補助はあるのだろうか。
- 中村参事 : 住民課によりあつまるポイントで支援されている。
- 教育長 : 町外から厚真高校に来る子に対して平均したら20万位を補助している。町外に出る子は月5千円で6万円くらい。
- 池川委員 : 保護者は皆このことを分かっているのかどうか。
- 教育長 : 厚真町で育てている子どもを支援すると考えた時に、教育委員会のみでは対応しきれない部分がある。そういう意味でここの部分というのは必ず見直しが必要だというのが前回も意見として出ていた。それらの意見を受けて今新しい高校魅力化事業をやっている。あえて更に低い評価でも教育委員会としての考えを示すことができると考えられる。
- 池川委員 : この費用を魅力化するための費用にシフトしてもらいたいということではないのか。
- 教育長 : 今、評価はA、B、Bと言う事なのだが、それぞれのランクを1つずつ下げると言う事なのだが。
- 池川委員 : B、C、Dでもいい。
- 池川委員 : 父兄会やOBが自分たちでお金を集めて高校存続のために行うのであればいいと思うが、町のお金を入れるのに、高い志をもつ同じ子どもに対して通学補助に差があるのは公平性がないと思う。
- 金光委員 : 町外の子どもたちに補助があってもいいとは思いますが、厚真の子どもたちの方が少ないことには、疑問を感じる。
- 池川委員 : 厚真から町外に通学する子どもたちにも9割補助してあげれば良いと思う。
- 長門委員 : 公平性を感じない。
- 池川委員 : 厚真高校を存続させることによる経済効果があつて税金を使っているのであれば良いが、そうになっているとは思えない。
- 教育長 : 正直なところそのデータを我々は出し切れておらず、得ることは非常に難しいと思う。これは子どもたちにとっているが、あくまでも学校に対する支援として使い分けをしていくしかない。この事業そのものには教育委員会としては完全に見直さなくてはならないという立場にある。

- この課題のところにはそのように書いた方がいいと思う。それに対して外部評価の皆さんも意見があると思う。
- 池川委員 : これから現実を直視して評価をしていかなければならない。
- 教育長 : このまま補助事業を行っていても効果的な結果を得られないと判断したことから、別事業を立てて高校の魅力化を図っている。
- 池川委員 : 現実論として、町内の子で厚真高校に進学している子が1～2人ということは、おそらく高校に魅力がないということだと思う。魅力がないものにただ税金を突っ込んで人だけ寄せて存続させる延命装置をつけているのと一緒だ。そんなに無駄なものに使ってられないようになってくると思う。
- 教育長 : 評価については、B、B、C、またはB、C、Cと思われるがいかがか。
- 池川委員 : B、C、D
- 教育長 : B、C、D。いかがか。
- 池川委員 : 外部評価委員会の評価を聴き、次の段階で協議することが重要である。
- 教育長 : B、C、Dでよろしいか。
- 池川委員 : その下の予算サービス方向性も一段階下がるのではないか。
- 教育長 : 縮小に向けてということではよろしいか。
- 池川委員 : ここの言葉に例えば縮小にして、その予算を本来の高校の魅力化をするための予算にシフトしていくと書いておいた方がいいのではないか。
- 教育長 : それでは評価についてはB、C、Dで課題改善点については厚真高校の本質的な魅力化のための事業転換が必要だと記載することでよろしいか。
- 池川委員 : 予算サービス方向性も縮小と言う事でよいのか。
- 教育長 : 予算はすぐに縮小とはならない。
- 池川委員 : 出してしまっているのは仕方がないが。来年度はさっき言ったように、違うお金の使い方にシフトしていくべきではないか。
- 中村参事 : 高校とも十分に協議をする必要がある。現時点での補助率を急に0にはすることはできない。段階を踏んで徐々に予算を縮小していった縮小した分を高校魅力化事業にシフトしていくというような流れになるのではないかと思う。段階的に関しては今既存の学生は維持して卒業までは現状維持、ただ新1年生からは3/5だとか1/2だとかという形で進めていくことになるかと思われる。
- 池川委員 : 理論的には入学してしまって3年間そんな思いで来ているろうから、3年間で町外に出てる子どもたちと同率まで下げるとか。その前に本当に存続させるべきなのか、廃校にしまうのかその議論もする場を設けないとただダラダラやってもただの無駄遣いになる。
- 中村参事 : 高校の魅力化事業で厚真高校に進学したいという町内の中学生が思うような展開を公営塾も含めて進めているところである。中学生が行きたいと思えるような学校にすることが必要かと思う。
- 池川委員 : でもさっきの英語に戻るが、ここまで小、中の子どもたちが一生懸命学力を上げた成果を無駄にしないような高校のありかたも考えた方がいい。
- 教育長 : 今後の方向性については、予算サービス方向性については縮小。
- 池川委員 : サービスも段階的に下げていくというのであれば縮小。
- 教育長 : 積極的に下げるものなのか、例えば高校の魅力化だとか動き出したものが少しずつ成果が出始めているという様子を見て、縮小方向に進めている

- くのか。
- 池川委員 : バランスは必要だ。いくら魅力化が進んでも、突然、補助事業をやめ入学者が減少して廃校になったらなにもならない。だから残そうと思うのであれば両方でバランスよくしていくしかない。
- 教育長 : 予算サービス現状維持、方向性縮小でその理由を今言った高校の実質的な魅力化に向けた準備へのシフト化を考えていく必要があるとする。
- 各委員 : 了承

(厚真・上厚真放課後児童クラブ運営事業)

- 教育長 : 社会教育グループ事業5つについて、まず1点目厚真町放課後児童クラブ運営事業について質問、意見等はあるか。
- 池川委員 : 事業費のところの賃金報酬の1,890万円は委託費のことなのか。
- 奥村課長 : 賃金は支援員の方を直接雇っていて、その方の賃金になる。
- 池川委員 : これは何人分なのか。
- 奥村課長 : 9人分である。
- 池川委員 : 上道さんがやっているものと同じ事業か。
- 教育長 : 違う事業である。上道さんがやっているのは、委託をして放課後子ども教室をやっている。
- 教育長 : その他にはあるか。評価並びに方向性についての意見はどうか。
- 日西委員 : 主な成果指標で児童の満足度ということで、令和2年から3年で4%くらい上がっているような結果が出ているが、それに対しての評価で効率性を見ると上がっているのも、良さそうなイメージで捉えられるのだがどうだろうか。
- 奥村課長 : 国からの補助金が減ったため、これをもらえる条件が変わったことによるものなのだが、ただ資格を持った人を配置する、確保することで補助金が増える余地があるということで、そういった対策をすれば更に町としての負担が少なくなるのでBにさせていただいている。
- 池川委員 : 有資格者を雇うのと補助金が増えるのとどちらが賃金得なのか。
- 奥村課長 : 補助金が増える方が得で、大分違う。
- 教育長 : 日西さんがおっしゃっているのは、効率性はAでよいのではないかと、そして課題という意味で、国の財源が減って町の持ち出しが増えたのだが、事業には必要な経費であると、ただそれに対して一般財源の持ち出しをしっかりと確保していかななくてはならないと捉えてはどうかということだと思う。
- 金光委員 : 有資格者というのは保育士などだろうか。
- 奥村課長 : 放課後児童クラブの支援員資格というものがあり、その資格になる。
- 池川委員 : 例えば今雇用している人でそれを目指して資格取得しているような人はいないのか。
- 奥村課長 : 今のところはいない。
- 金光委員 : それは打診してもいいのか。例えば給料も上がるかもしれないとか、そのために掛かる研修の費用を補助するだとかというようなことをアナウンスというか今やっている方たちにこういう資格も取れるのだけどうだろうかというように提案をしていった方がいいのかなという気がする。
- 教育長 : 処遇で差がつくのか。
- 奥村課長 : 差がつく。
- 教育長 : 日西委員から事業の効果の効率性BではなくAとして今後の課題の部

分をとらえるのはどうかということだったがどうだろうか。

池川委員 : だがこれは3年度から削られてもいいけども、それは早期に事前連絡はあったのか。突然なのか。5年前とかから3年度からこうなりますよという連絡があったのならうちの手落ちなのだが。

奥村課長 : 把握している範囲では、例えば5年前から令和3年度から変わりますよという感じではなかった。

教育長 : それでは厚真町放課後児童クラブ運営事業については効率性BをAに変更して課題の項目に記載を追加する。

(青少年健全育成事業)

教育長 : 続いては、青少年健全育成事業について質疑、意見等はあるか。

池川委員 : メディアコントロールチャレンジとは具体的には。

奥村課長 : 例えばスマホやゲーム、テレビなどを自分でどのくらいの時間使うのというような目標を立ててもらい目標達成できるかどうか挑戦してもらおうという取組になる。

池川委員 : それは小学生の分をもっと見てばかりいないようにできる余地があるということか。

奥村課長 : チャレンジの取組自体をやってもらおう子を増やす余地があると思う。去年の冬は3割程度なので例えば6割なり7割なり位参加してもらいたいということである。

池川委員 : それはただ参加しろということだけなのか。例えば成果がでたら何かをプレゼントするだとかはないのか。

奥村課長 : 小学生については今までは参加賞として、安価な文房具をあげたりしていた。

教育長 : その他にはあるか。事業の評価、方向性課題、改善点案はこの内容のままでよろしいか。

各委員 : 了承

(団体補助事業)

教育長 : それでは次の事業に入る。3つ目団体補助事業の質疑、意見等はあるか。

委員 : 特になし

(遺跡整理事務所管理事業)

教育長 : それでは4つ目遺跡整理事務所管理事業についての質疑、意見等はあるか。

池川委員 : ウポポイよりも素晴らしいと思われる文化財を保有しているのに、この予算これできちんと管理はされているのか。

奥村課長 : 心配されるような出土品については温度や湿度の管理をするとともに、更に劣化していかないような特殊な加工処理を行っているので、そういった面は対策ができており問題ないと考えている。

教育長 : 目標は後々は町教委が先になると思うが指定文化財として提出するということになる。そういうものが今、この前説明したようなアイヌの文化交流センターというところに資料として展示、保存と色々な人たちに伝えていくというような話になる予定である。

池川委員 : 国家プロジェクト、ウポポイに寄贈してあげた方が見る人もいいのではないか。どんなものかは分からないが。

教育長 : 専門家の有識者の一部の人からの意見としてはウポポイはどちらかというとアイヌ文化の広く一般的な入門編なのだそうだ。厚真町はどちらか

というピンポイントで少し専門性の高い、それから平取町とか日高町とかはまた別な専門という形のような。厚真としてはそういう重要な位置として考えられるし、また色んな経済効果も含めて要素として高いという意見をもらっている。

池川委員 : 経済効果はあると思う。現実に関わって修学旅行来たって震災のツアーやウポポイに行くという1日過ごすための1か所としては有効利用されている。

教育長 : ウポポイから来るときも、厚真へ行ったら実はそういうものがあるとか。そうなると来るときも違うし、逆にここからウポポイに行くときもこういうもので説明もつながっていく。評価については効率性、十分な効果を得られているがコスト、電気料についてはまだ節約できる余地はあるのではないかと、だから今はBだということか。

池川委員 : Aでいいと思う。ケチって変なことになるといけない。ただし書きの文のところを削って。

教育長 : ただし書きの文のところについては削除ということで。今後の方向性や改善点案についてはどうか。よろしいか。

池川委員 : 収容する施設の早期着工を願うと入れた方がいいと思う。ただあそこで管理して日の目を見ないというよりは早くお披露目できる環境になった方がいいと思う。

教育長 : 軽舞遺跡整理事務所の方は郷土資料も入っているので、その中で特に埋蔵文化財に必要なものについてはしっかりと保存、展示、伝承できる施設の整備は急がれるというようにするといいのではないかと。

各委員 : 了承

(パークゴルフ場管理事業)

教育長 : それでは最後、パークゴルフ場管理事業について質疑、意見等があるか。

池川委員 : 建物を買って整備している新町のところに作る予定なのか。

奥村課長 : 整備を予定している。

教育長 : 新町のパークゴルフ跡地には、一部芝が養生されている。こちらの地域の方がプレー出来るように新町に手を付けるのではないかなと推測している。事業としては、震災でパークゴルフ場が1か所利用できなくなってしまっており、利用者からパークゴルフ場の新たな拡充みたいなものが求められているというようなことでいいのではないかと。課題はそれに対してどうするというのは結論を出せないから、町長部局の担当に伝えてそれを実現してもらおうという役目を果たす。いかがだろうか。課題、改善点案についてもよろしいか。

各委員 : 了承

教育長 : それでは以上社会教育グループが終わったので、教育委員会の内部評価並びに自己点検についてはこの場の意見などを持って外部評価委員会に提出させていただく。

1 2 その他

(1) 第57回北海道市町村教育委員会研修会について

1 3 次回委員会の開催日程

・ 7月28日（木）午後2時30分（予定）

14 閉会